

# 「アソビ」を持たせる

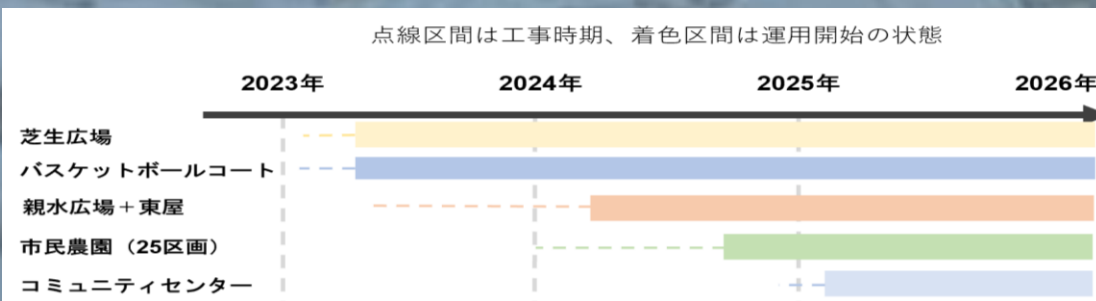


## 配置計画

対象地にはバスケットボールコート、シェアリングファーム、親水公園、広場、コミュニティセンターを配置する。シーホース三河が本拠地を移すことでより本格化するバスケットボール文化は、三河安城らしさを形成し、牽引していこう。三河安城の玄関口である新幹線の駅を出てまず目につく場所では、放課後の小中学生や会社帰りの社会人がバスケットボールを気軽に行うことができるようになり、三河安城の象徴としての役割を持つ。

現在は暗渠となり駅周辺地域では見えづらくなっている明治用水であるが、その水路の動線上に親水広場を設置する。安城地区の農業を根本から支えている明治用水をより身近に感じ、都築弥厚など先人たちの偉業を現代に伝承する意味合いを持つ。この親水広場やシェアリングファームでは、明治用水から引水した水を使用したい。マンションに住まい庭を持たない住民にとって身近でなくなった農業との接点を、シェアリングファームと親水広場が担い、自分たちの生活を支える食物や水のありがたさを認識する場をしたい。

## スケジュール



まずは敷地の素地となる地形やバスケットボールコートを先に整備する。その後、住民ワークショップとして多自然川づくりのように親水広場作りを行う。その後、堆肥作りなどとともにシェアリングファームを市民協働で作成し、最終的にそれらを管理するとともに、コミュニティの拠点となる建物を2025年度に建設することを計画した。

安城市が目指す都市像である、ケンサチ「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できるまち」の実現を目指し、子供から高齢者まで幅広い世代の市民が健康的に暮らす広場を作りたい。こうした市民一人一人の健康を礎として、人と人とのつながりが自然に生まれ、市民同士の交流が盛んになり、環境への関心を高め、経済を活性化し、伝統的な地域のきずなを継承する場所となってほしい。このようにして、地域住民が主体的な活動を生むゆとりのある「あそび」、日常生活に幸福や感動をもたらす「遊び場」から生まれたのが、タイトル「アソビ」を持たせる“である。

## 対象地周辺の理解

三河安城地域は、新幹線と在来線、複数の県道が交差する交通の要衝であると同時に、歴史的に重要な土木施設である明治用水中井筋線、さらに周辺より少し小高い地域となっている。新幹線駅と在来線の乗り換え場所ということで、連絡通路やロータリーをはじめ、様々な機能と公共空間が高質に整備されている。しかしながら、日陰やベンチなど滞在しやすい空間としての整備は十分ではなく、日中の利用者が少ないことが懸念されている。一方で対象地は、周辺のオフィスやホテル、工場などと駅を繋ぐ経路に位置し、また小中学生の通学路として帰宅時に通過する様子なども見られ、そのポテンシャルは高いと考えられる。



引用: <https://earth.google.com>

## コンセプト

1988年に誕生した三河安城駅。その後約30年の期間でマンションの建設など都市化が進み、住民が集まる重要地域として発展してきた。一方で、その背後に積み重ねられてきた歴史や文化などの地域性を感じ取ることができる場所は少なくなってきており、他の郊外都市との画一化が進む。農・歴史・スポーツなどをテーマとし、子供から高齢者まで幅広い世代の住民が様々な“遊び”を通して繋がることで、コミュニティの再構築を図りたい。そして「三河安城」という地域の素晴らしさを地域住民が再認識し、そこでの暮らしを楽しむと同時に、安城市が目指す都市像である、ケンサチ「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できるまち」を実現する風景の創出を提案する。

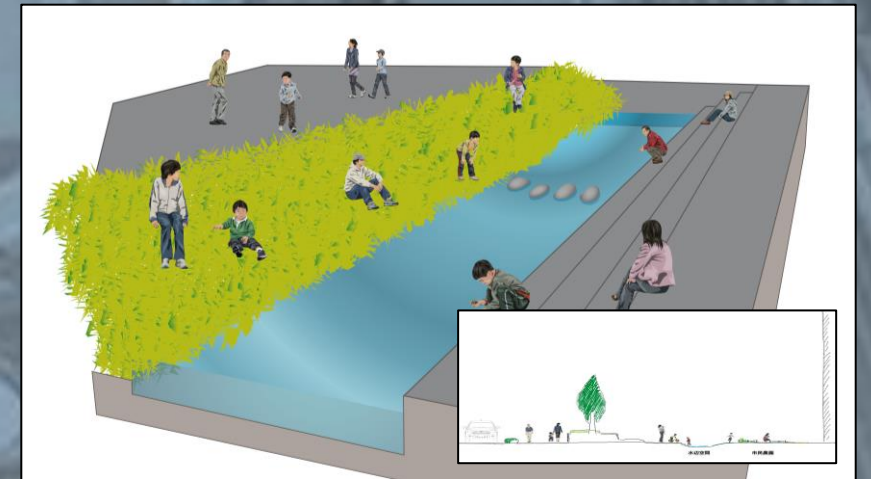
## 提案の特徴

### バスケットボールコート



3on3の本格的なバスケットコートを整備することで、住民が日常的にバスケットに触れる機会をつくりつつ、イベント時には三河シーホースによる練習会などで活用される。ボールが外へ出ることを防ぎつつ、視線の妨げにならないよう、周辺から少し低い場所にコートを整備し、荷物置き場や座って観戦できる居場所を生み出す。

### 親水広場



広域明治用水中井筋線の動線上に位置する親水広場は、既設の水場と合わさって都市のオアシス的役割を提供するとともに、生活を支える明治用水という社会基盤を感じさせる場となる。さらに飛び石や段差などにより水の流れを作るとともに水の流れる音を感じさせることで、通過する鉄道の音を緩和し落ち着いた空間を創出する。

### 芝生広場

中心に位置する広場は、新幹線、在来線両駅から来る人が出会い、新たな活動が生み出される場所となる。中央の広場を囲む芝生の丘からは、広場やバスケットボールコート、親水公園、農地などを眺めることができる。この芝生の丘は長居しやすく心地よい空間を提供するだけでなく、ここに座っている人を中央の広場など、公園の各地で起こる新たな活動に巻き込む作用をもつ。



### コミュニティセンター

コミュニティセンターは、バスケットコートやシェアリングファームの管理者が入居し、これらの活動を支援する。また地域の食を感じることで、五感で食を感じる体験を提供する。

### シェアリングファーム

住民がシェアして利用する農園は、周辺住民の家庭菜園の場となるだけでなく、借主同士の交流を生み出す場となる。また作った農作物を販売したり、農作物を使ったBBQ大会などを実施することで、ファームの借主・対象地の利用者が食を通して地域の豊かさを感じられる機能を生み出す。